

『社会文化論集』の創刊によせて

社会文化学科長 村 瀬 俊 樹

2004年4月、島根大学法文学部および教育学部の改組によって、新しく法文学部社会文化学科が誕生した。これは、社会の変動に対応して、従来の法文学部社会システム学科の中の心理学・社会学・地理学・文化人類学・歴史学・考古学と、教育学部から迎え入れられた社会福祉学とで、新たに構成した学科である。現代の社会は、複雑な様相を示し、様々な問題を抱えている。社会文化学科は、社会の現象や問題を多様な視点から総合的に研究し、また、総合的視野に立って社会と地域の現状とその歴史的背景を分析できる能力を備えた人材を養成するべく、教育を行っている。その特徴は、理論的な面はもちろん、実証的に問題を分析することを重視していることにある。

社会文化学科は、現代社会教室、歴史と考古教室、福祉社会教室の教員組織からなり、それぞれの教室に対応したコースにおいて、学生の教育にあたっている。本学科では、多様な学問的バックグラウンドを持った人々が集まり、その利点を生かして、自由闊達な議論のもと、お互いに刺激を与え、受けながら新しい学問を創造していく雰囲気がある。

ここに、本学科における研究・教育の成果として、『社会文化論集』創刊号を刊行することとなった。いずれも力作ぞろいであり、本学科の研究・教育の成果を広く内外に問うことができたと自負している。

今後とも、社会文化学科が、地域社会や国際社会への学問の発信地として更なる発展をすることを旨とし、『社会文化論集』が大きくその一翼を担うことを願って、創刊の挨拶としたい。